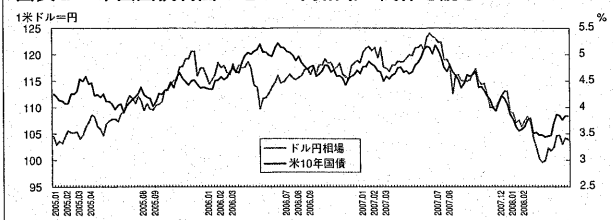


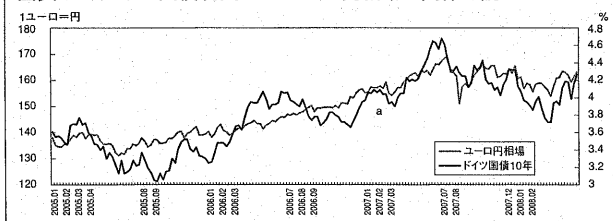
図表1 純資産額でみたランキング上位20 (上場投信を除く)

順位	ファンド名	会社名	当初設定日 年月日	基準価格 円	総資産 百万円	騰落率(%)			
						6ヶ月	1年	3年	5年
1	グローバル・ソブリン・オープン (毎月決算型)	国際投資投資顧問	1993/12/17	7,554	5,490,205	-3.8	-1.5	14.3	19.0
2	ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド (毎月分配型)	ピクテ投資投資顧問	2001/2/27	10,385	2,122,889	-12.7	-7.5	55.2	
3	マイストリー分配型 (年6回) Bコース	野村アセットマネジメント	2001/5/29	9,044	1,875,620	-9.7	-9.4		
4	ダイワ・グローバル債券ファンド (毎月分配型)	大和証券投資信託委託	1999/10/22	9,968	1,532,616	-5.2	-1.3	19.2	
5	財産3分法ファンド (不動産・債券・株式) 毎月分配型	日興アセットマネジメント	1999/8/4	10,590	1,095,145	-11.6	-15.6	19.5	
6	DIAM高格付インカム・オープン (毎月決算コース)	DIAMアセットマネジメント	1999/7/14	9,414	879,964	-8.6	1.4	27.0	
7	ダイワ世界債券ファンド (毎月分配型)	大和投資信託	2001/12/15	9,713	671,323	-5.9	-1.2		
8	三菱UFJ外国債券オープン (毎月分配型)	三菱UFJ投信	1998/8/28	11,454	632,177	-3.4	-0.9	17.2	24.1
9	グローバル好配当株オープン	大和住銀投資投資顧問	2001/7/21	9,792	571,791	-17.3	-9.8		
10	リそな・世界資産分散ファンド	大和投資信託	2001/11/17	8,170	536,202	-13.7	-13.1		
11	ハイグレード・オセアニア・オープン (毎月分配型)	大和証券投資信託委託	1999/6/12	10,079	524,635	-6.5	-0.2	24.6	
12	ビムコハイ・インカム毎月分配型ファンド	三菱UFJ投信	1999/8/7	9,354	457,425	-6.8	-7.5	17.2	
13	日興スリットップ (毎月分配型)	日興アセットマネジメント	2002/10/30	8,720	455,758	-10.3	-8.1		
14	GW7つの卵	日興アセットマネジメント	1999/2/27	9,376	448,216	-14.1	-15.5	20.2	49.1
15	グローバルREITオープン	野村アセットマネジメント	2001/2/20	8,284	427,478	-18.9	-23.3	32.3	
16	野村世界6資産分散投信 (分配コース)	野村アセットマネジメント	2001/10/2	10,237	420,641	-7.0	-6.9		
17	ワールド・ソブリンインカム	三菱アセットマネジメント	1998/3/25	10,811	411,632	-3.8	-0.8	15.8	20.7
18	野村新世界金利通貨投信 (毎月分配型)	野村アセットマネジメント	2003/11/26	10,092	403,665				
19	ニッセイ/パドナム・インカムオープン	ニッセイアセットマネジメント	1994/7/30	6,434	394,161	-8.8	-10.6	6.6	-1.3
20	野村世界高金利通貨投信 (毎月分配型)	野村アセットマネジメント	2003/8/28	9,726	382,878	-5.7			

図表2 米国国債利回りとドル円相場の関係を読む



図表3 ドイツ国債利回りとユーロ円相場の関係を読む



図表2と図表3は、米国の長期金利を代表する10年国債の利回りの推移を対比させて描いたものだ。さて、一見して分かるのとおりとてきれいな正の相関関係にある。つまり、債券の利回りが上がっている局面ではドルの対円相場が上がっており、債券利回りが下がる時期にはドル相場が下がっているのだ。これを言い直せば「債券価格が下がっているときにドルは上がる」「債券価格が上がっているときにユーロは上がる」となる。これは図表3についてもほぼ同じだ。これはユーロ債の代表格であるドイツ連邦債(10年)利回りとの関係において、「金利(債券相場)の関係をいって、「金利」↓「為替相場」というメカニズムが優勢に働くことが多かったのだ。つまり「金利・利回りが上がれば」↓「通貨が買われて高くなる」↓「金利・利回りが下がれば」↓「その通貨に魅力がなくなると売られる」というメカニズムだ。さてこのメカニズムが優勢である限りは、これからは外債ファンドの収益の安定性はそれなりに確保されると思うのだが。

**原則**としていつでも購入可能な追加型株式投信を純資産額でランキングすれば、上位20傑中いわゆる外債ファンドが何本エントリーするかお分かりだろうか？

図表1は、4月末現在の資産規模が大きな追加型株式投信のベスト20である(ETFは除いてある)。ハイライト部分が外債ファンドだ。正解は11本。

さて、これをお読みの読者の方のおそらく8割以上は銀行、信用金庫、信用組合など、預貯金ならびに貸出業務を行うとともに、窓口で投資信託の販売を行っており、その機会にお勧めの方だろう。であれば、おそらく3人に2人の読者の方は「あ、そういえばうちでは〇〇ファンドと△△ファンドは扱っているよ」と身近に感じてもらえるのではないかと。

**サブプライム問題下でも外債ファンドの下落率は軽微**

さて、そんな感じを持っておられる読者のうちの過半が「このころのサブプライム問題に絡んだ

世界的な相場の急変ぶりにもかかわらず、外債ファンドではあまり顧客に損失をもたらさなかったな」と振り返ってもらえるのではないかと。そのことは図表1がよく示していると思う。

特に過去1年の騰落率の欄をご覧いただきたいのだが、外債ファンドの下落率は総じて軽微にとどまっている。

一方、ここにランキングされている外債ファンド以外のファンドの多くは、いわゆる「グローバルバランス型ファンド」と称されるものだ。つまり、日本を含む各国通貨建ての株式、債券、あるいはリートに分散投資することを通じて、より安定的な収益を目指そうとするファンドだ。

しかし残念ながら、そうしたコンセプトで運用されている「マイストリー」「財産3分法ファンド」「リそな・世界資産分散ファンド」などの下落率は大きい。過去1年のサブプライム問題に揺れたマーケットの激変期において、外債ファンドのほうが、絶対収益はマイナスであったとはい

え、収益の安定度は高かったのだ。さて、その原因をどこに求めればいいのかだろうか。

**金利が上がると通貨が高くなる**

外債ファンドから見たらされる収益は大別すると「債券の収益」「為替の差損益」の2つからなる。これを踏まえたうえで図表2をご覧ください。

これは2005年以降3年半近くわたる米ドルの対円相場と米

なぜ外債ファンドはサブプライム問題の影響をそれほど受けなかったのか？

**債券と為替の損益が相殺しあっていることが外債ファンドの収益の安定性を生んでいる**

角川総一の  
  
**マーケット・リテラシー**  
 金融市場を読む、解く、話す力を養う  
 File.027